



2 地球温暖化の影響^{えいきょう}

(2) 生物への影響

地球温暖化によって、身のまわりの動植物も影響^{えいきょう}を受け、生息地域が変化したり、絶滅^{ぜつめつ}したりします。

理科…自然と人間

■アカウミガメ



■福津市の海岸

(写真提供：福津市役所)



(例1) アカウミガメ

福岡県福津市の海岸には、アカウミガメが産卵のためにやってきます。アカウミガメの卵は、砂の中で約2か月間温められて、ふ化します。このときの温度が24～32℃の間でないと死んでしまいます。また、卵からふ化するまでの温度で、オスになるかメスになるか決まり、29℃をこえるとメスしか生まれえないといわれています。

つまり、地球温暖化で温度が上がると、卵のまま死んだり、メスしか生まれなくなったりするため、絶滅^{ぜつめつ}するのではないかと心配されているのです。

(例2) ブナ

ブナは、日本における代表的な落葉広葉樹のひとつで、東北地方の白神山地のブナ林は、世界遺産にも認定されています。福岡県では、英彦山地^{ひこさんち}、古処山地^{こしょさんち}、脊振山地^{せぶりさんち}などに分布しています(出典：福岡県^{*1})。

ブナは涼^{すず}しい気候の地域に生育するため、気温が上昇^{じょうしょう}すると生育する範囲^{はんい}が減少すると予測されています。地球温暖化に伴い、九州、四国と、本州の太平洋側ではほとんど消滅^{しょうめつ}すると推定されています。(出典：森林総合研究所^{*2})



*1 福岡県レッドデータブック2011普及版 福岡県の希少野生生物(福岡県)

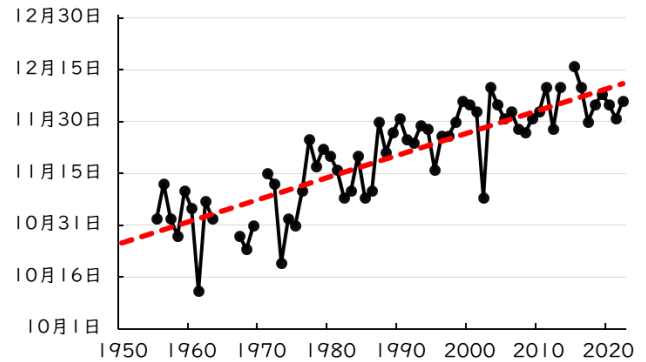
*2 地球温暖化と森をめぐる8つの質問(独立行政法人 森林総合研究所)

気象庁の生物季節観測

地球温暖化による生物への影響^{えいきょう}は、長期間にわたり調べなければ分かりません。そこで、気象庁が毎年発表している^{■福岡でのカエデ紅葉日^{*1}}生物季節観測の結果を利用してみましょう。

右のグラフは、福岡県でカエデが紅葉した日の変化です。カエデの紅葉は、秋になり気温が下がってきたときに始まります。カエデの紅葉日は次第に遅^{おそ}くなっており、全国的にみると、10年間当たりで3.0日遅^{おそ}くなったことが分かりました。

(出典：気象庁データ^{*1}を基に作成)



・黒点：毎年の紅葉月日
・赤の点線：変化の傾向

<調べてみよう>



生物季節観測では、他の動植物の結果も公表されています。下の手順を参考に、サクラの開花日の変化について調べてみよう。

(手順)

- ① 気象庁ホームページ^{*2}の「過去のサクラの開花日」から、年ごとのサクラの開花日を調べる。
- ② 年ごとの開花日を「■福岡でのカエデ紅葉日」を参考に、表やグラフにして平年値と比べる。

【生物季節観測】

- ・気象庁が、気象状況^{じょうきょうじょう}の推移^{すいし}を把握^{はあく}するため、全国で行っている観測。
- ・季節により変化する植物および動物の状態を観測している。



生物季節観測^{*2}

*1 気象庁ホームページ→各種データ・資料→地球環境^{かんきょう}・気候→生物季節観測の情報→生物季節観測値(種目別累年値)

*2 気象庁ホームページ→各種データ・資料→地球環境^{かんきょう}・気候→生物季節観測の情報→サクラに関する情報→過去のサクラの開花日